（様式）

平成３０年度　津山市立加茂小学校　学校評価書

校　長　　久　永　浩　輝　印

1　自己評価

Ⅰ　評価結果

項　目	成果と課題（達成状況）	評定
「確かな学力」を育成する。	ICT機器の導入に対応して、授業・理解に意欲喚起できた。職員の公開授業が多く、ともに指導案検討・公開授業参観など学び合いが進んだ。家庭学習の手引きを再編できた。	B
「やさしく思いやりのある子」を育てる。	「道徳」の研修をすすめることができた。「支援の必要な児童」に対して「校内ケース会議」をたびたび開催でき対応を支援した。保護者を関係機関によくつなげた。	B
地域や保護者と協力した児童の指導。	学年に応じて地域の特色を生かした体験活動が進んだ。「マイタウン津山」「特別非常勤講師」など今後へつながる授業の基礎ができた。地域とともにある学校になっている。	A

（A：目標を上回っている　B：ほぼ目標どおり　C：目標を下回っている）

Ⅱ　分析・改善方策

学習規律の定着とともに落ち着いた学習ができている。また家庭学習の取り組みについては、下学年は宿題と「学びたい思いプリント」、上学年はその上に「自主学習ノート」の取り組みが定着した。「東書プリント」を活用する学年が多くなり、今後、確実な学力の定着をめざす。文の読み取り、書くことなど課題も多く、学び直しが必要である。「終礼」における教職員の共通理解の時間は有意義であり、さらに一体感のある教職員集団をめざす。「家庭学習の手引き」をさらに整理し、家庭学習時間、１時間以上を確保していきたい。

地域とともにある学校づくりが進んだ。小中連携の発展を期すとともに、さらに連携・協力をすすめたい。

2　学校関係者評価委員会

八木惠三子・須田　京祐・平山　淑子・宇佐美七重・髙矢美諭紀・照井　浩海

3　学校関係者評価

児童の落ち着いた様子がよい。学校組織全体で子どもたちの「学びたい思い」に応えている。教職員の「教えたい思い」を感じられる。広い意味で児童にさらなる学びの成果を期待する。

「確かな学力育成」　A　「思いやりのある子を育てる」　B　「地域と共にある学校」　A

4　来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

「学びたい思い」に「教えたい思い」で応えていく学校づくり

（１）落ち着いた学習環境づくりに努め、安心・安全な学校づくりを行う。

（２）学力の向上を図る。（授業改革。家庭学習の時間、１時間以上を目指す。読書の推進。）

（３）豊かな心の育成を図る。

（４）開かれた学校・地域とともにある学校づくりを推進し、保護者や地域から信頼される学校づくりをすすめる。

平成30年度　津山市立加茂小学校　　学校評価書（別紙）

（　A:目標を上回った　B:ほぼ目標どおり　C:目標を下回った）

学校経営目標等		具体的計画	今年度の達成基準	自己評価 状況	自己評価 評価	総合評価	分析・改善方策	学校関係者評価	評価	総合評価
自ら学び、友と伸びる、心豊かな子どもを育成する。	「確かな学力」を育成する。	学習規律の徹底を図り、問題解決的な学習、体験的な学習により、児童主体の学習を展開する。 ・学習のめあてを提示し、自ら考え、判断し、表現する学習を展開する。 ・考えを表現し合い、学び合う場を設定する。 ・体験的な学習、作業的な学習を取り入れる。 ・正しい姿勢で学習する。 ・話を最後まで静かに聞く。 ・ノーメディアに取り組む。	・基本的な学習規律や望ましい学習態度を繰り返し指導し、定着を図る。 ・授業の始まりと終わりにけじめをつけ集中させる。 ・「外国語授業」導入。朝のモジュールを計画的に実施。 ・校内公開で、研究授業を行い、授業者及び参観者のお互いの授業力の向上を図る。 ・「初任者研修」「市センター教科公開授業」「県センター公開授業」を機会にともに学び、個々の授業力向上を図る。 ・ICT機器を有効活用し、視覚的にわかりやすい授業を工夫する。 ・ノーメディア4年目、定着を図る。	・「外国語」「朝のモジュール」はほぼ計画通り実施できている。 ・アンケートから、メディアに触れる時間の約束がない児童が多くいることがわかった。 ・「県・市センターの授業公開」を通じて共に学べた。 ・授業公開の指導案検討を通じ、自らの指導を振り返ることができた。 ・2学期からICT機器が整備され、活用できた。（特別支援学級未設置） ・「声のものさし」が確認・提示できた。 ・「家庭学習のてびき」再編、配布できた。 ・3年生の学習規律について見直しができ、成長が見られた。	B	B	「確かな学力の育成」 ・2学期からICT機器が通常教室に配備され「デジタル教科書」等を使用した授業は進み意欲・興味を喚起できた。授業規律は3年生で2学期に心配となったが、3学期には集中して取り組めるようなった。「知識の定着」は規律ある授業の実践と、「学び直し」（1学年前の復習）を行っていく。その際津山市で採用している「東書プリント」を有効に活用する。応用力の育成には「読み」と「書き」を丁寧に組み入れるカリキュラムで対応する。今年度改定した「家庭学習の手引き」をさらなる改良で良いものにしていく。	「確かな学力の育成」 学習の様子を年間に数度参観できたが、いつも落ち着いてよく取り組めている。6年生はメモをとりながら自主的にどんどん理解できている。憲法学習の単元だったが、切り込み方もよい。自己評価の状況説明を聞いて、基礎項目はBからAが良い。 　読書の取組もアイデアよく頑張って成果をあげている様子がよくわかる。また、「学びたい思い」を持って自主学習に取り組む高学年や「校長プリント」に取り組む中低学年もよくやっている。学力の向上を確信する。	A	A
		読書の時間を増やす	「読書で日本全国を旅しよう！」カードを使い、積極的に読書できた実感を持たせる。	・児童回答76%、保護者回答56%が「昨年より読書を頑張った」と回答。 ・47都道府県達成者数、のべ70名。	A				A	
		自主的な学びを支援する。	・中、高学年に「自主学習ノート」の定着を図る。 ・「校長プリント」の取組を発展・深化させる。 ・放課後学習サポート事業を活用する。 （年間200時間計画）	・高学年の「自主学習ノート」提出率がほぼ100%だった。 ・「校長プリント」は種類・量が増え、低学年がよく取り組んだ。・2年生（九九学習）にも対応。 ・1年生、2年生担任から復習用プリントの提供もあった。 ・放課後学習も順調（各学期約15名の在籍）	B				B	
	「やさしく思いやりのある子」を育てる。	お互いを尊重し、心を合わせて協力して取り組む児童を育成する。 ・気持ちの良い言葉遣いをする。「ありがとう」「ごめんなさい」が自然に素直に言える児童を育てる。 ・困っている人や年下の人に親切にする。 ・誰とでも仲良くし、助け合える児童を育てる。	・お互いを尊重するために、気持ちの良い言葉遣いができるようにする。また、逆に、言われて気持ちよくない言葉遣いはなくしていく。 ・自分や友だちの良さに気づいたり、発表したりする場を設定する。 ・縦割り班あそびや幼稚園との交流などを通して、年下の人に親切にする心を育てる。	・人権学習で人権に関する授業が計画的にすすめられた。 ・「道徳」学習の実施・評価等の研修が進んだ。 ・人権集会を実施。クラスアンケート結果などを発表し、お互いに人権意識を確認できた。 ・「クラス自慢」の掲示ができた。	B	B	「やさしく思いやりのある子の育成」 級友の「良いところ」を見つける目をどの学級でも養っている。児童会の活動は自主的にできるようになり、次世代につながるよい活動に期待できる。教職員による「児童理解研修」は有意義であり、一体感のある教職員集団になってきた。反面、特別な支援を必要とする児童に対して、理解の乏しさから心ない発言をする子どもには、ていねいな仲間作りの説諭を繰り返していく。	「やさしく思いやりのある子の育成」 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとよく連携がとれ、児童を支えている様子がわかる。また保護者への啓蒙もすすみ、関係機関へつなげた児童が多いので下段のBはAでよいのではないか。	B	B
		児童理解を深めるため、日常的に情報交換をする。 ・支援の必要な児童には、ケース会議等により組織的に対応する。 ・保護者や関係機関と連携して支援する。	・毎日の終礼で、児童について情報交換しすることで、すべての職員で児童を指導していく体制を整え、児童理解をより一層深めるようにする。 ・支援の必要な児童には、「校内ケース会議」を開き、皆で対応を検討し実践する。保護者と指導方針を共有すると共に、時には、外部の関係機関等と連携を図るようにする。 ・子ども理解の研修を定期的に行う。	・終礼の情報交換により、児童理解が共有できた。 ・管理職・生徒指導主事を軸に、支援の必要な児童への対応について、関係機関との連携によりできている。 ・保護者へ関係機関・病院受診への助言ができ、対応家庭が増えた。 ・子ども理解の研修の深化が必要。	B				A	
	「地域とともにある学校づくり」 小中連携をすすめ、地域や保護者と協力して児童の指導に当たる。	「学校支援地域本部事業」「マイタウン津山」の活用で、保護者や地域と協力して教育を行う。	・学校支援ボランティアの支援を受け、児童の教育の充実を図る。 ・地域の人材を活用したり、地域に出かけ「地域調べ」の学習をすすめる。 ・ゲストティーチャーを招聘し、豊かな学習を進める。	・「家庭科」「読み聞かせ」「Xマスコンサート」などボランティア支援があった。 ・「マイタウン津山」事業が系統的に進んだ（むかし遊び、阿波村、加茂の昔の姿、森林学習、加茂の国際交流等） ・「地域調べ」が進んだ。プレゼン仕法など学べた。	A	A	「地域とともにある学校づくり」 ボランティアによる授業支援は今年度も安定して進んだ。また「マイタウン津山」計画を整備し全学年の系統性のある活動の基盤ができた。また特別非常勤講師「切り絵」に5年生がよく取り組め、次年度に発展を期している。幼稚園・保育園等との連携はついに移行期となり、次年度再構築する。最終年でもあり「幼稚園」の運動会参加など思い出多き活動ができた。中学校との接続についても「夏季合同研修」の充実と「講演」などの導入を計画したい。	「地域とともにある学校づくり」 地域の教育力や支えをうまく活用できている様子がわかりとてもよい。また、学年があがるにつれ、継続的に学びの計画があるのがよい。 　阿波小学校経験の児童がいよいよラストになる。「校歌」を歌い続けるのもよいことだと思う。中学校との連携は十分できていると感じているが、あり方を模索してさらに頑張ってくれればありがたい。	A	A
		豊かな自然や地域の特色を生かした体験的な活動を行う。	・加茂地域の自然理解をすすめる森林学習や、郷土を大切にし、また体験できる機会を持つ。	・森林学習（植樹体験PTA活動）は計画通りできた。 ・昔遊びは地域の方に「児童祖父母」も加わり実施できた。	A				A	
		危機管理意識を高め、事故等の未然防止に努めるとともに、常日頃から「報告」・「連絡」・「相談」を密にする。	・避難訓練を学期に1度計画し、さらに避難移動しないミニの訓練を数度行う。 ・「緊急時引き渡し訓練」を実施する。	・火災、地震の避難訓練、Jアラート訓練などできた。 ・昨年の反省を活かし、「引き渡し訓練」が実施できた。 ・「不審者侵入」対応訓練も「教職員」「児童も含めた全体」と2度実施できた。	A				A	
		小中連携をすすめる	・児童会・生徒会交流をすすめる ・「教職員合同研修」をさらに深める。 ・小中相互の授業研究をすすめる。 ・小中連携から、さらに幼小中連携を図る。	・中学校からの出前授業実施が定着した。 ・「職員合同研修」「授業参観」ができた。 ・幼稚園との交流は深まった（運動会参加等） ・幼稚園・保育所閉園への対応が課題。 ・小学校から中学校へなかなか出かけられない。	B				B	